大学発・政策提案

「小学生向け和洋古典籍実見・体感プログラム開発事業」

中間報告書

鶴見大学・神奈川県立図書館
平成 27 年 10 月 1 日

大学発・政策提案

「小学生向け和洋古典籍実見・体感プログラム開発事業」

中間報告書

目次

１．事業の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1- 5

２．実施詳細

1) 横浜市立戸部小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6-14

2) 横浜市立豊岡小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15-23

3) 横浜市立矢向小学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24-34

３．教材の開発と修正について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35-36

４．中間まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37-43

１．事業の概要

1) 大学発・政策提案とは

「大学発・政策提案制度」とは、神奈川県が専門的な知見や人材等を有する大学と一層連携強化を図ることにより、多様化・複雑化する県政の課題を解決することを目的として、平成２１年度からスタートさせた制度であり、神奈川県内に所在する大学（短期大学・大学院大学を含む）から県政に関わる政策提案を募集し、公開コンペ方式の審査により選ばれた提案について、大学と県が協働で事業を実施するという制度である。

2) 事業の内容

小学生が日本と世界の古典籍類を実見・体感し、知性を刺激して感性を涵養するためのプログラムと教材の開発と実施の提案
＜小学生向け和洋古典籍実見・体感プログラム開発事業＞

県内の小学生を対象に、文化そのものである内外の書物類の意味を理解する入り口として、鶴見大学と神奈川県立図書館が所蔵する日本と世界の古典の有名な書籍や貴重な資料類を、実際に見て触れ、その文化的な香りを体感してもらい、知性と感性を涵養するきっかけとすることを目的とする。子どもの読書活動の推進や、文字・活字文化振興へとつながる、短期的な成果では計れない「成長する体験」となる。本事業では、プログラムの開発と教材作成、指導のモデル構築を行う。鶴見大学の書誌学と日本文学の専門教員及び図書館員、神奈川県立図書館の職員が指導し、鶴見大学の大学院生や学生が補佐する。

目的：小学生による、図書館の蔵書（貴重書、コレクション）を活用した幅広い学びの体験を通じた、文字文化や言語文化に対する知的興味の啓発
効果：保存と公開を両立させ、本物に触れることによる生徒の知的好奇心の喚起、教員の教育指導への支援、大学図書館と県立図書館の連携
目標：体験プログラムと教材の開発、報告書(付録 DVD：資料取扱動画等)の作成、成果公開シンポジウム等による神奈川県立図書館との事業継続への展開

【平成 26 年度】

・プログラムの開発と教材作成
・小学校５年生または６年生の一学年全員を対象（２校程度予定）
・貴重書・コレクションの実見・体感ツアー、和本作成体験
・鶴見大学図書館と神奈川県立図書館のいずれか希望の一館で実施

・プログラムと教材の改善の検討、中間報告書の作成および公開

【平成 27 年度】

・改善プログラムの確認と新規の教材作成、モデル構築

・前年度同様に、実見・体感ツアー、和本作成体験の実施（４校程度予定）

・モデルの再検討、最終報告書の作成および公開"

事業実施者

県立図書館	山本長史 土屋定夫 森あかね 石井里枝
鶴見大学　教員	中川博夫 久保木秀夫 伊倉史人 高田信敬
鶴見大学　図書館員	長谷川豊祐 八巻千波 田村直規 堀はな恵
鶴見大学　大学院生	松本亜由美 河田翔子 吉沼朱夏 糸日谷輝 小池亜弥香 細野奈央 本田裕子 松本真一 川島知美

（小学校宛趣意書）　日本と世界の貴重な本を自分の手であつかってみよう

小学生のみなさんへ。

日本と世界の、古くてめずらしい、大事な本を、すぐそばで見たり、自分でさわったり、めくったりしてみませんか？

何百年も前に、うつくしい墨と文字で写された本や、印刷出版された本。きれいで楽しい絵入りの本。手間ひまとお金をかけた豪華な本。ずっとずっと昔の、まだ紙がなかった時代の本。明治時代以降のベストセラー、地方史などの貴重な本。

そういった、写真でしか見られなかったり、教科書でしか知らなかったりする本を、実際に、みなさん自身の手で、あつかうことができるのです。

ぜひ、鶴見大学図書館と、神奈川県立図書館に来てみてください。よそではけっしてできない体験です！

校長先生へ。

鶴見大学では、東日本大震災被災者を支援するプロジェクトの中で、平成24年度と本年度に気仙沼市立大谷小学校の皆さんを大学にお招きして、図書館の古典類を見てもらいました。当初の予想をはるかに超えて、そういった内外の古い貴重な書物に小学生達が大いに心を動かし、関心を持つことが実感されたのです。

その経験を活かし、神奈川県と協働で、神奈川県下の小学生達にも、同じような機会を提供して、少しでも心を豊かにするきっかけとしてもらいたいと考えました。

具体的には、神奈川県の政策として大学発政策提案制度があり、その平成26～27年度の提案として、鶴見大学の「小学生が日本と世界の古典籍類を実見・体感し、知性を刺激して感性を涵養する」ためのプログラムが採択されたところです。子どもの読書活動の推進や、文字・活字文化振興へとつながる、短期的な成果では計れない「成長する体験」となります。その詳細は、別紙のとおりです。

つきましては、平成26年度の実施として、県下の小学生を対象として、以下のような次第で、参加希望の小学校を募集致します。

このプログラムの趣旨にご賛同いただける小学校のご参加をお待ちしております。

プログラムの概要

小学生を対象に、文化そのものである内外の書物類の意味を理解する入り口として、鶴見大学と神奈川県立図書館（紅葉ヶ丘）が所蔵する、日本と世界の古典の有名な本貴重な書籍類を、実際に見て触れ、その文化的な香りを体感してもらい、知性と感性を涵養するきっかけとしてもらうことを目的としています。

鶴見大学の書誌学と日本文学の専門教員及び図書館員、神奈川県立図書館の専門職員が丁寧に指導します。鶴見大学の大学院生や学生が補佐します。

対象　５年か６年生の一学年全員。１クラスのみのご希望にも対応可能。

時期　学期中の平日か土曜日。ご希望があれば休暇期間中の対応も可能。

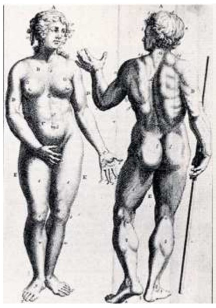
時間　１回２時間程度（移動時間を除く）。

内容　１）図書館の全体見学

２）図書館と典籍の説明、特に古典籍と貴重書の取り扱い方の説明

３）古典籍・貴重書の実見

予定書目　　古今和歌集、源氏物語、平家物語、御成敗式目（現存最古写本の一つ）、解体新書、粘土板文書、パピルス文書、ターヘルアナトミア、シェークスピア作品、シンデレラ、ベストセラー文庫、地方史



４）和本作り体験　和紙を使った和本を作ります。

指導　鶴見大学教員・同図書館員・同大学院生、神奈川県立図書館職員。引率は、各学校の担任にお願い致します。

場所　鶴見大学付属図書館（横浜市鶴見区鶴見２－１－３）　ＪＲ鶴見駅より徒歩５分。京急鶴見駅より徒歩７分。

神奈川県立図書館（横浜市西区紅葉ヶ丘９－２）　ＪＲ桜木町駅より徒歩１０分。

※　プログラムは、いずれかご希望の一館で実施

費用　小学生と引率者の実施場所までの往復交通費を除く、プログラムに関わる費用は鶴見大学と神奈川県が負担。

備考　実施後にアンケートをお願い致します。また、これらの成果は、政策提案の実施終了後に、報告書にまとめてインターネットなどでも公開致します。成果を踏まえたシンポジウムの予定もあります。

別紙
平成 26～27 年度神奈川県大学発政策提案制度採択提案（鶴見大学）

【提案の名称<事業名>】

小学生が日本と世界の古典籍類を実見・体感し、知性を刺激して感性を涵養するためのプログラムと教材の開発と実施の提案。

【提案の概要】

神奈川県内の小学生を対象に、書誌学や文献学を専攻する鶴見学の教員と大学院生及び学生の指導により、本学蔵の和漢洋の古典籍に直接触れる経験をとおして、書物の変遷に関する知識を学びつつ、文化資源としての書物の価値を実感してもらう。その為のプログラムを開発して教材を作成し、それを小学生に対して実施する。

この過程で、文字文化や言語文化に対する知的興味を啓発して書物の世界へと誘い、小学生をより高度な学問や幅広い文化を学ぶ入り口に導きつつ、情操にも働きかけることを目指す。併せて、小学校の教員にもこの様子を観察してもらい、その後の指導の一助にしてもらうことを促すモデルを構築する。

また、大学図書館だけでなく、図書館の多様な機能とコレクションに接するため、神奈川県立図書館との連携も実現する。さらに、県立図書館との連携により、このプログラムと教材を幅広く周知してそれを基にした同類事業の展開を図り、大学図書館ならびに県下の公立図書館相互間の連携に繋げつつ、神奈川県の小学生の読書環境を向上させる施策、例えば、神奈川県における子ども読書活動推進計画策定等の参考に供することができる。

目的：小学生による、図書館の蔵書（貴重書、コレクション）を活用した幅広い学びの体験を通じた、文字文化や言語文化に対する知的興味の啓発

効果：保存と公開を両立させ、本物に触れることによる生徒の知的好奇心の喚起、教員の教育指導への支援、大学図書館と県立図書館の連携

目標：体験プログラムと教材の開発、報告書(付録 DVD：資料取扱動画等)の作成、成果公開シンポジウム等による神奈川県立図書館との事業継続への展開

【実施内容】

まず実施するための有効なプログラムを開発し、使用する教材を作成する。その上で、神奈川県下の小学生を対象に、１校から４０名程度を一つの単位として、その引率教員を交えて、図書館全体を見学した後、書物の歴史、図書館の機能、書物の扱い方等を１時間程度で説明し、その後、和漢洋の古典籍（和書、奈良時代から江戸時代までの写本、刊本。漢籍、宋～清の刊本、洋書、古代から近代までの各種書籍。具体例参照）を実見・体感する。その他関連する作業を体験する。その後、質疑応答とアンケートを実施する。

２．実施詳細

1)　横浜市立戸部小学校

第１回目となるモデル授業実施は、平成２６年６月１１日（水）10:45～12:15（３・４限目）に、神奈川県立図書館近くにある横浜市立戸部小学校（横浜市西区伊勢町）の 6 年生 2 クラス、58 名を対象とした。会場は戸部小学校の図書室（１階）と特別教室（２階）を利用させてもらい、県立図書館から３名、鶴見大学から教員１名、職員３名、大学院生４名が訪問し、授業を行った。

a)　準備

事前に校長先生や学校司書、教諭の方々に県立図書館に来ていただいたり、鶴見大学と県立図書館のスタッフで、戸部小学校の校内を下見させていただいたり、といったやりとりを重ね、校長先生はじめ先生方にこの事業の趣旨をご理解いただき実施に至った。

b)　スケジュール

(1)　挨拶（10:45~10:50）　鶴見大学図書館　長谷川豊祐事務長

(2)　レクチャー（10:50~11:10）鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科　久保木秀夫准教授

(3)　［１組］古典籍実見 11:15~11:35 (20 分)　→　和本づくり 11:40~12:05 (25 分)
　　［２組］和本づくり 11:15~11:40 (25 分)　→　古典籍実見 11:45~12:05 (20 分)

※　2 組は和本づくりが終わった児童から順次実見会場に移動。このため、実見体験時間は児童により 10 分程度の差があり。

c)　実施当日

２階特別教室に２クラス５８名が集まり、長谷川事務長より挨拶後、久保木准教授がパワーポイントを用いて、文字・紙・本の歴史、古典籍の価値、その取扱い方法について、途中、児童への出題を織り交ぜながら、レクチャーを行った。児童は積極的に問題に答え、集中して話を聞いていた。（写真１、２）

（写真１）

（写真２）

授業後に取ったアンケートでは、

- 今の時代は、コンピューターで数冊も作れるけど、昔の本は１冊１冊作っていてすごくくろうしたんだなーと思いました。
- 私は最初、「なんで昔の本は大切なのか?」と思いました。それで、説明を聴いていると、「作り直しはできない」ということがわかりました。

などの記載があり、歴史や価値について、こちらの想定していた知識・情報が正しく伝わり、理解を得られていることがわかる。

レクチャー後、古典籍実見と和本作りの２組に分かれ、途中交代をしてそれぞれ体験してもらった。

古典籍実見では、県立図書館、鶴見大学より持ち込んだ貴重書・古典籍を戸部小学校図書室に並べ、見るだけのスペースと触れるスペースに分け、時折スタッフが解説しながら、先ほどレクチャーを受けた取扱い方法を実践してもらった。当日は、県立図書館より、学問のすゝめ、横浜絵鉄道、横浜絵開港、解体新書など、鶴見大学より、パピルス、解体新書、ターヘルアナトミア、御成敗式目などを持ち込み、展示を行った。（写真３、４）

写真３

写真４

アンケートでは、

- 本に実際さわると、和紙でやわらかい物や、固い紙の物などが色々あった。本作りでは昔の本の作り方が良く分かった。今まで、昔の本は見たことが無かったけど、昔の本を見て、色々な種類があることを知った。
- 「解体新書」や「御成敗式目」「学問のすすめ」などは教科書や資料でしか見たことがありませんでした。でも、今日。実際に見れたし、さわることまでできたので、貴重な体験にわくわくしました。和本は紙がうすくてあつかいに緊張したけれど、中も興味深いものばかりでした。とてもおもしろかったです！！

古典籍を見て触ることで、紙質や作り、文字、色、においなど、ガラスケース越しには発見しづらい違いに気づき、さらにすでに教科書等で得ていた情報・知識と照らし合わすことで、相補的に知識を吸収している。また、資料の中身に興味をもつ児童も見受けられ、新たな知への興味を引き出すことに成功した。

和本作りでは、多くの道具を必要としない、紙と糊だけで作れる粘葉装（でっちょうそう）を作ってもらった。粘葉装のつくり方は小学生でも作れるよう多少アレンジを加えた。

本文紙（和紙 A3）を二つ折りにし、折り目に糊を付け重ね合わせる。重ね合わせた背の部分に細い紙を貼って補強し、表紙（色和紙 A3）を二つ折りにして本文紙を包み貼る。表紙に題せんを貼り記名する。

大学院生を中心に全体での説明の後、個別に指導を行った。（写真５、６）

写真５

写真６

本文紙には、レクチャーで説明した内容を穴埋め形式の文と実見した古典籍の紹介を印刷してあり、和本作り体験に加え、今回学んだことの振り返りに利用できるようにした。

質問(3) **紙**が世界に広まる前、人びとは、**どんなもの**に文字を書いていたでしょう？

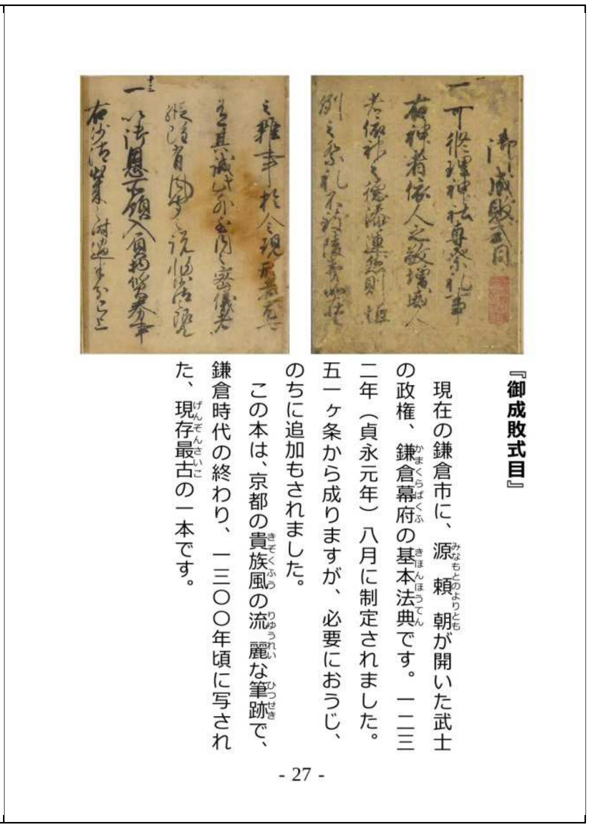
答え 「　　　　　　　」

⑤

⑥

⑦

- 3 -



『御成敗式目』

現在の鎌倉市に、源頼朝が開いた武士の政権、鎌倉幕府の基本法典です。一二三二年（貞永元年）八月に制定されました。五一ヶ条から成りますが、必要におうじ、のちに追加もされました。

この本は、京都の貴族風の流麗な筆跡で、鎌倉時代の終わり、一三〇〇年頃に写された、現存最古の一本です。

- 27 -

テキスト１　　　　　　　　テキスト２

古典籍実見を先に行った組はすでに和本を見ているため、どのような和本が完成するかイメージしやすかったようで、和本作りに至る作業がスムーズなように見受けられた。

アンケートでは、

- わたしは、今日和本づくりがとてもたのしかったです。りゆうは、やり方の説明がわかりやすく友達とも協力できたからです。
- 本作りでは昔の人もこのように作っていたことが分かりむずかしいのにこれだけに数を作れてすごいなと思ったし先生たちの説明で昔のことがよく分かったのでよかったと思いました。

和本作りの楽しさはもちろんだが、当時の労苦を想像し、本作りに関しての技術の進歩を実感したようだ。

先に古典籍実見を行った組は和本作りに、和本作りを先に行った組は古典籍実見と入れ替えを行った。

最後に児童全員にアンケートをお願いし、第１回のモデル授業は終了した。

d）アンケート結果

設問は５つ用意した。全体の感想とレクチャーの理解を択一でそれぞれ設問を用意し、どの内容（レクチャー、実見、和本作り）に興味をもったかを問う設問を２つ（複数回答可）用意した。また自由記述で感想を書いてもらった。

「昔の本にさわってみよう！」　戸部小学校　生徒さんアンケート

実施日：2014 年６月 11 日（水）

1．今日は、おもしろかったですか？（どれか１つ）

□おもしろかった　□ふつう　□つまらなかった

2．スタジオでのお話は、わかりやすかったですか？（どれか１つ）

□わかりやすかった　□わかりにくかった　□むずかしくてわからなかった

3．今日やったことのなかで、どれがおもしろかったですか？（いくつでも）

□最初のお話　□昔の本などを、さわっていいコーナー

□昔の本などを、さわらないで見学するコーナー　□和本作り

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　　）

4．今日の授業で、よくわかった点や感じた点に☑をつけてください（いくつでも）。

□ a) 人々が、大昔から文字を使って色々なことを伝えようとしてきたことがよくわかった。

□ b) 昔の本の種類には、手で書いた本と印刷した本の２種類があることがよくわかった。

□ c) 手で書いた本と印刷した本の違いが、実際に見てよくわかった。

□ d) 昔の本のあつかい方がよくわかり、実際、それにしたがってあつかうことができた。

□ e) 古い本の形には、いろいろな種類があることがわかった。

□ f) 古い本を実際に見たりさわったりして、大切に伝えられてきたものであることを感じた。

□ g) 昔の本がなぜ貴重（きちょう）なのかがよくわかり、大切に伝えていく必要があると思った。

5．今日の感想をおしえてください（書ききれない時は裏面（うらめん）に書いてください。）

ありがとうございました☺

アンケート用紙

アンケート回収数は58（回収率100%）であった。

１．今日は、おもしろかったですか？

おもしろかった	55（94.8%）
ふつう	3（5.2%）
つまらなかった	0（0%）

２．スタジオでのお話は、わかりやすかったですか？

わかりやすかった	56（96.6%）
わかりにくかった	0（0%）
むずかしくてわからなかった	2（3.4%）

３．今日やったことのなかで、どれがおもしろかったですか？（複数回答）

最初のお話	12（20.7%）
昔の本などを、さわっていいコーナー	53（91.4%）
昔の本などを、さわらないで見学するコーナー	30（51.7%）
和本づくり	38（65.5%）
その他	3（5.2%）

・この本は何かわからないときにおしえてもらったこと
・新聞
・いい字を見ている時（つながっている字）

４．今日の授業で、よくわかった点や感じた点に☑をつけてください。（複数回答）

ａ）人々が、大昔から文字を使って色々なことを伝えようとしてきたことが分かった。
49（84.5%）

ｂ）昔の本の種類には、手で書いた本と印刷した本の２種類があることがよくわかった。
46（79.3%）

ｃ）手で書いた本と印刷した本の違いが、実際に見てよくわかった。
37（63.8%）

ｄ）昔の本のあつかい方がよくわかり、実際、それにしたがってあつかうことができた。
46（79.3%）

ｅ）古い本の形には、いろいろな種類があることが分かった。
50（86.2%）

ｆ）古い本を実際に見たりさわったりして、大切に伝えられてきたものであることを感じた。
53（91.4%）

ｇ）昔の本がなぜ貴重なのかがよくわかり、大切に伝えていく必要があると思った。
53（91.4%）

５．今日の感想をおしえてください。

記載内容の件名	レクチャー	和本作り	実見	全体
回答数	15	16	43	7
割合	25.9%	27.6%	74.1%	12.1%

大部分の児童が、この授業をおもしろく、わかりやすかったと評価してくれた。また、こちらが伝えたい古典籍への興味、貴重さが伝わり、何より新たな知への刺激を与えることができたと思われる。

後日、戸部小学校の６年担任の教諭２名と学校司書１名の計３名にアンケートを実施した。

１　生徒の理解度について

下記の項目について、それぞれ、生徒がどの程度理解（あるいは実感）できたと思われますか？ 理解度に応じて ○ △ × の３段階でお答えください（先生の印象で構いません)。

・本や文字の歴史について　（ ○×3 ）
・昔の本の様々な形について　（ ○×3 ）
・古典籍がなぜ貴重か、について　（ ○×3 ）
・古典籍の扱い方について　（ ○×3 ）

２　プログラム全体について

今回のプログラム全体の構成や内容について、よかったと思う点、改善が望まれる点についてご教示ください。

【よかった点】
・昔の本に実際に触れることができ、子ども達も興奮しておりました。充実した体験活動であるのと、普段できない体験が実現できたのが良かったです。
・やはり本物にふれるというのは何にも代え難い魅力があると思った。
・丁寧な説明、多数のスタッフのご参加ありがとうございました。大変貴重な本に触れて、今の本とは異なる形、特徴などを自分自身で気づいたり、自分の言葉で表現するなどすばらしい体験授業でした。

【改善が望まれる点】
・本づくりの時間が予想よりもかかったので改善が必要かと思いました。
・各資料の内容的な価値について、もっと知りたい。
・本づくりは枚数、時間等工夫があると良い。
・もう少し時間的にゆとりがあれば、と思いました。又、次回同じような授業の機会があ

りましたら、今度はもう少し時間的なゆとりを、又、是非、県立図書館を訪ねる、という体験を子どもたちに、と願っております。

3　事業全体について

今回の事業全体について、小学校として受入しやすくするために配慮すべき点などお気づきの点、そのほか、全体を通じての感想等お聞かせ下さい。

・プロジェクタでの説明も分かりやすく、古典籍の価値についても理解が深まりました。ありがとうございました。
・教科との関連がより図られると授業としてとりあげやすい。
・子どもたちの深い反応、自分で感じたこと・発見をそれぞれの言葉で表現する力など、いずれも圧倒的な資料に触れ得たことで引き出されたものであると実感しました。このような貴重な体験を小学生の時代に、とお考えになられたことにとても敬服いたしております。

先生方にも大変好評をいただいた。ご指摘いただいた改善点を次への反省点とした。

また、戸部小学校のホームページ上の「今日の戸部小」で、今回の事業について紹介・報告いただいた。

戸部小学校ホームページ「今日の戸部小」

e) 反省点・改善点

事業が始まって初のモデル授業であったため、手探りでの進行もあり、不手際が目立った。後日、参加したスタッフに反省点・改善点を提示してもらった。

【和本づくり】

- 作業進度に個人差が大きく、完成に至らない児童も多数であった。作成する冊子のページ数を減らしたほうがよい。
- 作業中の質問も多かったので、手順を理解している補助スタッフの人数を十分に確保する必要がある。
- 糊付部分を色表示したサンプルや、完成サンプルの用意があったほうがわかり易い。
- ２クラスのうち、古典籍実見→和本づくりの流れで体験した児童のほうが、作る「和本」をイメージしやすかったのか、作業がスムーズだった。

【古典籍実見】

- “貴重な本を丁寧に扱う”という認識が薄かった。扱い方について更に強調して説明する必要があると思われる。また、スタッフが丁寧に扱いながら手渡しする、触れない本はスタッフも手袋をして扱うなど、慎重・丁寧に扱う演出も必要。
- 何を知るために触っているのか伝わっていなかった。例えば見るべきポイント別にコーナーにして展示し、展示した本を示しながらのレクチャーの時間を設けるなどの工夫が必要か。
- 児童の資料への興味は、自身の知識と密接に結びついていることがわかった。小学校の直近の授業内容に即したものや、知っている本、読める本、視覚的に興味を引く本などを展示できるとよいかも。

【その他、運営や全体について】

- 時間配分・役割分担について、より入念な準備が必要（移動の時間も予め考慮に入れる必要あり）。また、和本づくりでは作業の進捗に差がでるのは回避できないので、時間で区切る必要あり。
- 教員が複数いたほうがよい。
- 今回のような入れ替え制にすると、実見→和本、和本→実見の体験の順番によって、それぞれ受け止めが異なる印象だった。可能であれば入れ替え制でないほうがよい。
- 学校側の協力が不可欠であることから、事前の関係づくりが重要。
- 主催者側も楽しんで取り組むことがスムーズな進行につながる。
- 小学生の好奇心は想像以上だった。
- 昔の「本」だけでなく「字」からのアプローチもあるか。
- PR のため、メディアの取材が入ってもよかったか。
- 当事業のキャッチフレーズが欲しい（例：「古典籍：きいて、さわって、つくる」）

これら反省点・改善点を踏まえ、次回以降のモデル授業に活かしていきたい。

2)　横浜市立豊岡小学校

平成 26 年の小学生体験授業２回目は、鶴見大学図書館で実施された。
平成 26（2014）年 7 月 22 日（火）、23 日（水）9：00〜12：00 の２回開催した。
参加人数は、対象の豊岡小学校より教員 2 名と 4〜6 年生の児童各日 21 名ずつの 42 名となった。「鶴見大学図書館探検隊」と題し、サマースクールの一環として行われた。
県立図書館から 3 名、鶴見大学から教員 2 名、職員 4 名、大学院生 22 日 4 名、23 日 7 名参加し、授業を行った。

a)　準備
豊岡小学校の先生方と鶴見大学図書館で打合せを行い、鶴見大学ホール・会議室・貴重書室等会場の確認を行い、実施した。

b)　スケジュール
(1)　挨拶（9:10~9:10）　鶴見大学図書館　長谷川豊祐事務長
(2)　レクチャー（9:10~9:20）鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科　久保木秀夫准教授
(3)　古典籍実見（9:45~10:45）
(4)　和本づくり（10:45~11:20）

c)　実施当日（7/22-23 両日同手順）
地下 1 階の視聴覚 AV ホールに 21 名の児童が集まり、鶴見大学図書館長谷川豊祐事務長の挨拶後、「昔の本にさわってみよう！」と題して、鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科久保木秀夫准教授からのお話しがあった。
児童にはパワーポイントで解説をしながら行われた。児童がわかりやすいように、本の歴史・文字・紙・古典籍の種類、古典籍の扱い方などを学んだ。(写真 1、２)

写真 1

写真 2

ホールでの説明についてアンケート

- 地下ホールでのお話は、とてもよい学習になりました。昔の本には、パピルス紙や、ねんど板、羊皮紙など、いろいろな種類があってとてもびっくりしました。昔の本をさわったり、みたりするとき、まきものにも開けかたなどがあり、昔の本はとても深いな、と思いました。
- 地下ホールでは、〇〇年前の実際の文字や何に書かれていたか、などの映像がでて分かりやすかった。
- 最初の説明はむずかしかったが昔の本の大切さがわかった。字を解読するのがおもしろかった。伝えていかないと！！

約２０分のお話しの後、３階の会議室へエレベーターで移動し、荷物は、会議室前に出した机に置き、貴重書をさわる前の手洗いを行った。

文房具のみを持って会議室でさわる貴重書について説明があった。
貴重書の資料紹介・扱い方の説明・実演を行い、鶴見大学文学部日本文学科中川博夫教授、大学院生、県立図書館職員、鶴見大学図書館職員が補助につき実際に会議室に並べていた貴重書をさわり、扱い方の体験を行った。大学院生が 6 つに分けたテーブルにつき、あるいは先生や県立図書館・鶴見大学図書館の職員が巡回する形でフォローに入り解説しながら、児童が気になる巻物や和装本を手に取り体験した。(写真３、４)

写真 3

写真 4

その後は、貴重書室へ移動し、実際にさわれない貴重書を見学する。
学問のすゝめ、横浜絵鉄道、横浜絵開港、解体新書など、を県立図書館より、鶴見大学からはパピルス、解体新書、ターヘルアナトミア、御成敗式目などを持ち込み、展示を行った。(写真 5、6)

写真 5

写真 6

アンケート

- ぼくは、和の物が好きで今日きました。そしたら、まき物があってたのしかったです。一番おもしろかったのは夏目そうせきの手紙です。ほかにも、ねずみに食べられた本や虫に食べられた本があって、「本当にこういうものもあるんだ！」と思いました。
- まきものは、あまり、みたりさわったりしたことがなかったけど、この体験でまきものの見かた、しまいかたがよくわかりました。また、他の本のこともよくわかってよかったです。
- 昔の本にさわる体験がとてもおもしろかった。みんなと、ここの文字は、どうよむのか話した！本ににた紙（パピルス紙、羊皮紙）のサンプルがほしかった。

　また、会議室へ戻り、和本作りを行った。
テーブルの上に新聞紙をしき、のりと紙のみで完成する粘葉装を作成した。今回は、前回よりページ数を減らし、配布した本の紹介のテキスト 8 枚の紙から作成する形で実施した。6 つに分けたテーブルごとに院生が付き、手順を確認しながら行った。（写真 7、8）

写真 7

写真 8

アンケート

- とくに楽しかったのは、和本作りです。紙をおったりのりをはったりしたのが楽しかったです。

・ 本作りにもいろんな種類があって大変だなと思いました。
・ 昔の本とか本つくったから本をつくるのは大切さを感じました。
・ 糸とじの本も作ってみたい。
・ 和本作りで、昔の人は字を書くことから始めていたのがすごいと思いました。なぜなら、自分は、１６ページ分の文字でさえ、気が遠くなるから、昔の人の和本作りはすごいと思いました。

以上のように、本の大切さ貴重さなどを実地で学ぶことができたと思われる。

最後は、アンケートの記入、まとめの挨拶の後、図書館の見学を行い、終了した。（写真 9、10）

写真 9

写真 10

d） アンケート結果

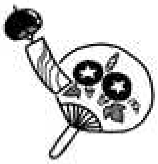
設問は５つ用意した。

ホールでの解説、見学、和本作成に関してそれぞれの項目で確認した。

また、5 では、今日の感想を記入してもらった。

「昔の本にさわってみよう！」　豊岡小学校　生徒さんアンケート

実施日：2014年7月22日（火）・23日（水）



1．今日は、おもしろかったですか？（どれか１つ）

□おもしろかった　□ふつう　□つまらなかった

2．地下ホールでのお話は、わかりやすかったですか？（どれか１つ）

□わかりやすかった　□わかりにくかった　□むずかしくてわからなかった

3．今日やったことのなかで、どれがおもしろかったですか？（いくつでも）

□地下ホールでのお話　□昔の本を自由に見たりさわったりしたこと

□貴重書庫の見学（隣の部屋での貴重書見学）　□和本作り

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

4．今日の授業で、よくわかった点や感じた点に☑をつけてください（いくつでも）

□ a) 人々が、大昔から文字を使って色々なことを伝えようとしてきたことがよくわかった。

□ b) 昔の本の種類には、手で書いた本と印刷した本の２種類があることがよくわかった。

□ c) 手で書いた本と印刷した本の違いが、実際に見てよくわかった。

□ d) 昔の本のあつかい方がよくわかり、実際に、それにしたがってあつかうことができた。

□ e) 昔の本の形には、いろいろな種類があることがわかった。

□ f) 昔の本を実際に見たりさわったりして、大切に伝えられてきたものであることを感じた。

□ g) 昔の本がなぜ貴重なのかがよくわかり、大切に伝えていく必要があると思った。

5．今日の感想をおしえてください（書ききれない時は裏面に書いてください）

ありがとうございました☺

アンケート用紙

アンケートは両日とも回収数は各 21。合計 42 で 100%回収した。

１．今日は、おもしろかったですか？（どれか１つ）
おもしろかった　40（95.2%）
ふつう　2（4.8%）
つまらなかった　0（0.0%）

２．地下ホールでのお話は、わかりやすかったですか？（どれか１つ）
わかりやすかった　37（88.1%）
わかりにくかった　5（11.9%）
むずかしくてわからなかった　0（0.0%）

３．今日やったことのなかで、どれがおもしろかったですか？（いくつでも）
地下ホールでのお話　11（26.2%）
昔の本を自由に見たりさわったりしたこと　33（78.6%）
貴重書庫の見学　22（52.4%）
和本作り　36（85.7%）
その他　0（0.0%）

４．今日の授業で、よくわかった点や感じた点に☑をつけてください（いくつでも）
a）人々が、大昔から文字を使って色々なことを伝えようとしてきたことがよくわかった。
32（76.2%）
b）昔の本の種類には、手で書いた本と印刷した本の２種類があることがよくわかった。
31（73.8%）
c）手で書いた本と印刷した本の違いが、実際に見てよくわかった。
26（61.9%）
d）昔の本のあつかい方がよくわかり、実際に、それにしたがってあつかうことができた。
29（69.0%）
e）昔の本の形には、いろいろな種類があることがわかった。
31（73.8%）
f）昔の本を実際に見たりさわったりして、大切に伝えられてきたものであることを感じた。
25（59.5%）
g）昔の本がなぜ貴重なのかがよくわかり、大切に伝えていく必要があると思った。
36（85.7%）

5. 今日の感想をおしえてください。

記載内容の件名	レクチャー	和本作り	実見	全体
回答数	4	16	35	7
割合	9.5%	38.1%	83.3%	16.7%

大部分の児童がわかりやすく、面白かったと評価した。
また、貴重書への興味・関心などをかきたてる一助になったと思われる。

後日、豊岡小学校の教員２名にアンケートを実施した。

１　生徒の理解度について

下記の項目について、それぞれ、生徒がどの程度理解（あるいは実感）できたと思われますか？ 理解度に応じて ○ △ × の３段階でお答えください（先生の印象で構いません)。

・本や文字の歴史について　（　○×２　）
・昔の本の様々な形について　（　○×２　）
・古典籍がなぜ貴重か、について　（　△、○　）
・古典籍の扱い方について　（　△、○　）

２　プログラム全体について

今回のプログラム全体の構成や内容について、よかったと思う点、改善が望まれる点についてご教示ください。

【よかった点】
・ただ見学するだけでなく、実際に見ることができた　和本のように、本を作る体験があってより興味が深まり、面白さを感じることができたと思う。
・普段は訪れることのない大学図書館に入館し、たくさんの蔵書を目にし、古典籍に触れることもでき、大学の先生のお話もお聞きできる等、貴重な体験をさせていただきました点。

【改善が望まれる点】
・一テーブルずつアシスタントがついてくれたが、教える時のポイントなどを共通理解しておいてほしかった。たとえば、１ページずつたしかめながらのりをはることや、角をあわせることなどよりよいものを作るための準備がほしいと思われた。
・和本作りでは、各グループを担当して下さった学生さんのサポートが有難かったです。が、個々人の声のかけ方等によって児童の理解に差が出たように感じました。事前の共通理解があれば、更に良いものになったのではと思います。

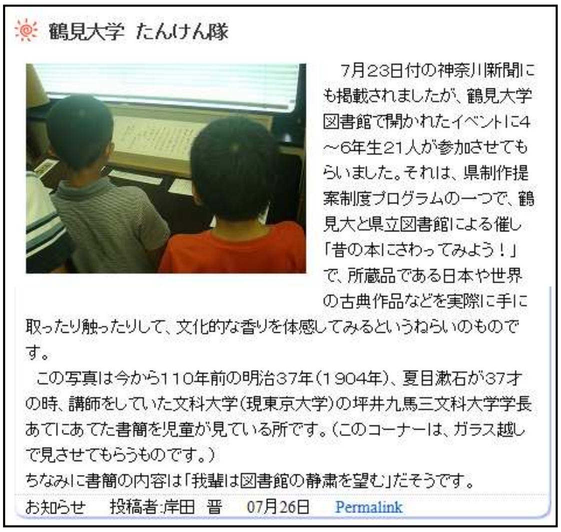
３　事業全体について

　今回の事業全体について、小学校として受入しやすくするために配慮すべき点などお気づきの点、そのほか、全体を通じての感想等お聞かせ下さい。

・準備の段階から、話し合いができよかったと思います。
・近い学校ですので、今後もまた、よろしくお願いします。
・直前の打合せでお話しさせていただいたことも、すぐに対応していただき、感動しました。有難うございました。
・今後も同じような内容で実施していただけることを期待いたしております。

先生方にも好評をいただいた。また、ご指摘いただいた改善点を次回への反省点とした。

　また、後日豊岡小学校のホームページに体験報告が掲載、神奈川新聞平成 26（2014）年 7 月 23 日 18 面にも紹介された。



鶴見大学 たんけん隊

7月23日付の神奈川新聞にも掲載されましたが、鶴見大学図書館で開かれたイベントに4～6年生21人が参加させてもらいました。それは、県制作提案制度プログラムの一つで、鶴見大と県立図書館による催し「昔の本にさわってみよう！」で、所蔵品である日本や世界の古典作品などを実際に手に取ったり触ったりして、文化的な香りを体感してみるというねらいのものです。

この写真は今から110年前の明治37年（1904年）、夏目漱石が37才の時、講師をしていた文科大学（現東京大学）の坪井九馬三文科大学学長あてにあてた書簡を児童が見ている所です。（このコーナーは、ガラス越しで見させてもらうものです。）

ちなみに書簡の内容は「我輩は図書館の静粛を望む」だそうです。

お知らせ　投稿者:岸田 晋　07月26日　Permalink

横浜市立豊岡小学校のホームページより

文化的な香り体感

鶴見大で地元児童　源氏物語写本など触れ

源氏物語や解体新書の写本など貴重な書物に触れられる珍しいイベントが22日、横浜市鶴見区の鶴見大学図書館で開かれた。地元の市立豊岡小学校（同区豊岡町）の4～6年生21人が参加し、本や文字の歴史などを勉強した。

県政策提案制度プログラムの一つで、鶴見大と県立図書館による催し「昔の本にさわってみよう！」。同大や同図書館が所蔵する日本や世界の古典作品など85点をガラス越しなどではなく実際に手に取ったり触ったりして、文化的な香りを体感してもらおうという狙いだ。

まず同大の久保木秀夫准教授が文字の歴史や、貴重な書籍が戦禍や災害から逃れて保存されるには多くの先人の努力があった背景などを紹介し、貴重書の取り扱い方を説明。児童らは、1300年代に写本された現存する最古の御成敗式目や、杉田玄白らが翻訳した解体新書（1774年刊行）、1600年代に書かれた源氏物語の写本をはじめ、古代エジプトのパピルス文書や古代オリエント文明のくさび形文字の粘土板の実物などを間近にした。

江戸時代などに書かれた写本や版本のページをめくり「虫に食べられた跡がある」「においが複雑」などと感想をもらしながら、興味深そうに眺めていた。

江戸時代などに書かれた紫式部日記や和歌集などの写本や版本を触る児童ら＝鶴見大学図書館

市運営2病院　医療事故ゼロ

2013年度まとめ

横浜市は22日、市が運営する市民病院（保土ケ谷区）と脳血管医療センター（磯子区）で2013年度に、病院側の過失が明らかであったり、重大な結果が発生したりした医療事故はなか

神奈川新聞より

e)　反省点

・ 流れとしては、前回の反省を踏まえたものとなった。
・ 実見も会議室（さわれる貴重書）から貴重書閲覧室（さわれない貴重書）へは和本作りの準備も含めてわかりやすくできた。
・ 和本も前回完成に至らなかった児童がいたため、テキストの枚数を減らして作成したことできちんと完成することができた。
・ 貴重書実見に関しては、さわれない貴重書であるものにもさわりかけるなどの動作があったため、もう少しさわれるものとさわれないものの差別化を考える必要があると思われる。

3)　横浜市立矢向小学校

第３回目となるモデル授業実施は、平成２７年２月２６日（木）に、横浜市立矢向小学校（横浜市鶴見区矢向）の５年生３クラス、名を対象とした。会場は矢向小学校の「森の広場」を利用させてもらい、県立図書館から３名、鶴見大学から教員４名、職員４名、大学院生７名が訪問し、授業を行った。

a)　準備

事前に校長先生や教諭の方々と打ち合わせを行い、校内を下見させていただき、校長先生はじめ先生方にこの事業の趣旨をご理解いただき実施に至った。

b)　スケジュール

第１回（５年２組）

(1)　挨拶（8:40~8:45）　鶴見大学図書館　長谷川豊祐事務長
(2)　レクチャー（8:45~8:55）鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科　久保木秀夫准教授
(3)　古典籍実見（8:55~9:25）
(4)　和本づくり（9:30~10:05）

第２回（５年１組）

(1)　挨拶（10:30~10:35）　鶴見大学図書館　長谷川豊祐事務長
(2)　レクチャー（10:35~10:45）鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科　伊倉史人准教授
(3)　古典籍実見（10:45~11:15）
(4)　和本づくり（11:20~11:55）

第３回（５年３組）

(1)　挨拶（13:50~13:55）　鶴見大学図書館　長谷川豊祐事務長
(2)　レクチャー（13:55~14:05）鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科　久保木秀夫准教授
(3)　古典籍実見（14:05~14:35）
(4)　和本づくり（14:35~15:10）

c）　実施当日

５棟１階森の広場にて、１クラスごと３回に分けて授業を行った。長谷川事務長より挨拶後、久保木准教授（２回目は伊倉准教授）がパワーポイントを用いて、文字や紙、そして本の歴史についてレクチャーを行った。古典籍の価値などの理解を深めてもらうため、レクチャーの合間に児童へ簡単な出題を出し、聞くだけでなく考えてもらう時間も織り交ぜて行った。（写真１、２）

（写真１）

（写真２）

授業後に取ったアンケート

- 昔の本がこの世に一つしかなくて、たとえこわれたりしてもこうかんや買いなおしたりできないことが分かって今とはちがって字を書くのにはねんどや木、羊の皮などを使っていて紙は二千年も前にあったことが分かってよかったです。
- 昔の本についてのお話では、わかりやすく、ていねいに教えてくださったり、クイズ形式だったので本のことがていこうなくよくわかりました。

レクチャー後、教室後方にセットした貴重書・古典籍を見て触ってもらった。各テーブルにはスタッフがつき児童からの質問に答え、反対にスタッフから質問をして児童の関心・興味を惹くように、理解を深めるように行った。

さらに取扱に注意が必要な資料（解体新書、ターヘル・アナトミア、御成敗式目、クレイタブレットなど）は、他の資料とは離れた前方にセットし、スタッフ指導・監視の下で触れることができるようにした。

写真３

写真４

アンケート

- 私は一番「えまき」というものが心に残りました。絵（コピー）では見た事はあったけれど、本物を見る事は初めてなのでとても感動しました。虫に食べられている本があるなんてびっくりしました。今日この授業を受けて、本をもっと大切にするきっかけになったのでよかったです！
- 「今も百人一首のかるたがあるのは昔の人がこうして本にして後世に残してくれたからなのだと改めて感じた。ターヘル・アナトミアのなかの絵がリアルだったのですごいと思った

和本作りでは、紙と糊だけで作れる粘葉装（でっちょうそう）を作成した。古典籍を見てもらっている間に、新聞紙（作業用）、本文紙（和紙 A3）、背補強用和紙、表紙（色和紙 A4）、裏表紙（色和紙 A4）を配付しておいた。

本文紙には、レクチャーで説明した内容を穴埋め形式の文を印刷してあり、和本作り体験に加え、今回学んだことの振り返りに利用できるようにした。

粘葉装のつくり方は、本文紙の印刷した面を内側にして二つ折りにし、折り目部分に糊を付け重ね合わせていく。重ね合わせた背の部分に補強用和紙を貼り、表紙・裏表紙を貼る。表紙に題せんを貼る。（写真５、６）

写真５

写真６

アンケート

- はったり折ったりしているときに､｢昔の人って､もっとページが多い本(辞書など)を作るとき、本当に大変だったんだろうなと思った。
- 昔の和本をつくり、和本がどのようにつくれたのか、どういうこうぞうなのかが分かりました。

１回目のレクチャーの際、折りたたみ椅子に児童を座らせていたが、和本作りのために毎回撤去するのが煩雑なため、２回目より床に座ってもらった。

各回の最後に児童全員にアンケートをお願いした。

d) アンケート結果

設問は５つ用意した。全体の感想とレクチャーの理解を択一でそれぞれ設問を用意し、どの内容（レクチャー、実見、和本作り）に興味をもったかを問う設問を２つ（複数回答可）用意した。また自由記述で感想を書いてもらった。

「昔の本にさわってみよう！」　矢向小学校　児童アンケート　5-3

実施日：2015 年２月 26 日（木）

1．今日は、おもしろかったですか？（どれか１つ）

□おもしろかった　□ふつう　□つまらなかった

2．昔の本についてのお話は、わかりやすかったですか？（どれか１つ）

□わかりやすかった　□わかりにくかった　□むずかしくてわからなかった

3．今日やったことのなかで、どれがおもしろかったですか？（いくつでも）

□昔の本についてのお話　□昔の本を見たりさわったりしたこと　□和本作り

□その他（　　　　　　　　　　　　　　　）

4．今日の授業で、よくわかった点や感じた点に☑をつけてください（いくつでも）

- □ a) 人々が、大昔から文字を使って色々なことを伝えようとしてきたことがよくわかった。
- □ b) 昔の本の種類には、手で書いた本と印刷した本の２種類があることがよくわかった。
- □ c) 手で書いた本と印刷した本の違いが、実際に見てよくわかった。
- □ d) 昔の本のあつかい方がよくわかり、実際に、それにしたがってあつかうことができた。
- □ e) 昔の本の形には、いろいろな種類があることがわかった。
- □ f) 昔の本を実際に見たりさわったりして、大切に伝えられてきたものであることを感じた。
- □ g) 昔の本がなぜ貴重なのかがよくわかり、大切に伝えていく必要があると思った。

5. 今日の感想をおしえてください（書ききれない時は裏面に書いてください）

ありがとうございました☺

アンケート用紙

アンケート回収数は 97（回収率 100%）であった。

１．今日は、おもしろかったですか？

おもしろかった	87（89.7%）
ふつう	10（10.3%）
つまらなかった	0（0%）

２．昔の本についてのお話は、わかりやすかったですか？

わかりやすかった	87（89.7%）
わかりにくかった	4（4.1%）
むずかしくてわからなかった	6（6.2%）

３．今日やったことのなかで、どれがおもしろかったですか？（複数回答）

昔の本についてのお話	33（34.0%）
昔の本を見たりさわったりしたこと	82（84.5%）
和本づくり	59（60.8%）
その他	8（8.2%）

・いろいろな、形の本があるのがわかった
・知ったことをメモしたこと
・昔の絵や紙の作り
・ミニはっけろみたいな図や梅を桜とみて白玉楼と思ったこと
・いろいろな人への質問
・本の話をききながら見たこと
・友達といっしょにできたこと
・本の字をおしえてもらった事

４．今日の授業で、よくわかった点や感じた点に☑をつけてください。（複数回答）

ａ）人々が、大昔から文字を使って色々なことを伝えようとしてきたことが分かった。
73（75.3%）

ｂ）昔の本の種類には、手で書いた本と印刷した本の２種類があることがよくわかった。
68（70.1%）

ｃ）手で書いた本と印刷した本の違いが、実際に見てよくわかった。
68（70.1%）

ｄ）昔の本のあつかい方がよくわかり、実際、それにしたがってあつかうことができた。
68（70.1%）

ｅ）古い本の形には、いろいろな種類があることが分かった。
74（76.3%）

ｆ）古い本を実際に見たりさわったりして、大切に伝えられてきたものであることを感じた。

80（82.5%）

ｇ）昔の本がなぜ貴重なのかがよくわかり、大切に伝えていく必要があると思った。

81（83.5%）

５．今日の感想をおしえてください。

記載内容の件名	レクチャー	和本作り	実見	全体
回答数	26	23	69	10
割合	26.8%	23.7%	71.1%	10.3%

後日、矢向小学校の５年担任の教諭３名にアンケートを実施した。

１　生徒の理解度について

下記の項目について、それぞれ、生徒がどの程度理解（あるいは実感）できたと思われますか？ 理解度に応じて ○ △ × の３段階でお答えください（先生の印象で構いません）。

・本や文字の歴史について　（△×4）
・昔の本の様々な形について　（○×4）
・古典籍がなぜ貴重か、について　（○×1、△×3）
・古典籍の扱い方について　（○×2、△×2）

２　プログラム全体について

今回のプログラム全体の構成や内容について、よかったと思う点、改善が望まれる点についてご教示ください。

【よかった点】

・子どもにとって本当に貴重な経験になったと思います。子ども達の興味や疑問に細かく、丁寧に、手厚く応じて頂けたことがとてもありがたかったです。
・実際に見て、触れられるところは、とてもよい。
・自由に本に触れることができてよかった。
・本づくりは子どもが楽しそうにしていた。
・予想以上にステキな本がた
・沢山の方々が来て下さり、古書の説明や製本作りの補助など、細やかに配慮して下さり助かりました。

【改善が望まれる点】

・この授業を 6 年生にやって頂けたら（時期的にはなかなか難しいのですが…）さらに面白いなあと思いました。授業に出てきた人物等、社会の学習でふれているので…

・本を作るところがあるが、作りっぱなしで終わってしまうので、作るのであれば、それを活用して何かできるとよいと思った。
・水にぬれたり、焼けたりした本があると貴重感が高まる
・やはり5年生より6年生の方が歴史への理解につながる
・今の本づくりと昔の本づくりの違いが分かる映像があればいいな

３　事業全体について

今回の事業全体について、小学校として受入しやすくするために配慮すべき点などお気づきの点、そのほか、全体を通じての感想等お聞かせ下さい。

・この授業をやって頂けたことは本当によかったです。子ども達がこの先学習をしていく中で、「あのときの本だ!!」「そんなにすごいものだったんだ…」と感じる日がくるのではないかと思います。私自身もたいへん勉強させて頂きました。ありがとうございました。
・昔の本について触れる機会はほとんどないので、とてもよい体験になったと思う。今回の体験を通して、昔の本に興味をもつ児童が増えると思いました。ありがとうございました。
・子どももそうですが、大人も楽しめる2時間でした。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
・小学校としては、五感を使った活動、アニメ映像など、子どもが楽しめるのが第一です。今年度も、機会があれば、ぜひお願いします!!
・何年生の何の教科との関連、という事がはっきりしていると、小学校として受入れやすいのではないか、と思いました。

e)　反省点・改善点

実施当日、本学文学部日本文学科岩間正則准教授に、教育の面から事業内容を確認してもらい、改善点を挙げてもらった。

１　挨拶（長谷川さん）

・「みんなと一緒にプロジェクトを作ります」という点が不要。児童には伝わっていない。
※事前に、学級で本時のことについてどのように指導しているのか？

２　説明（久保木先生、伊倉先生）

・説明は分かりやすいが、「昔の本にさわる」という一番の中心となることに繋げる説明になっていない。

（改善）今回手に取れる本がどれくらい古いものであるかを、「江戸時代で今から 300 年前のもの」のように、古さを少しでも実感させる。場合によっては値段を示すことも。

（改善）何で古い本が残っているのかについて、和紙（伝統的な文化の視点）についてふれる。

（改善）実際にさわることのできる本を５冊くらい示してポイントを示すことで、その本を手に取りたいという関心を高める。

・写本のもの　VS　製版のもの（活字、版木）
・『学問のススメ』の一節を示す
・『豆腐百珍』の中の料理を紹介する
・『醒睡笑』のように、面白い話を紹介する。
・絵がたくさんあることについて説明する。

・本のところについている院生のちょっとした投げかけが効果的であった。

（改善）自分のところに置かれている本についての、話がさらにできるようになるとよい。

・本を並べるスペースが狭い。

（改善）一つの机に、もう少しゆったりと置くことで、多くの児童が手にとることがすんなりできるようにする。

・クイズはあるが、基本的に一方的な話になっている。

（改善）言語活動を取り入れて、少し考えさせ、それについ近くの児童と話し合わせる。

・児童に記録用紙を持たせるか。

（改善）白紙を持たせている学級があったが、今回は不要では。それよりも、説明を聞くときに簡単なワークシートを持たせてもいいかもしれない。

3　本作り

・説明が、見本を示しながらもう少し丁寧にして欲しい。伊倉先生が糊付けの幅を示したのは良かった。

（改善）初めてのことなので、「どちらでもいい」ということは無しの方がいい。

（改善）完成品のイメージを持たせる。

（改善）全部折ったところで、一度作業をやめて、次の説明に入るなど、区切りながら行うと、全体の作業に差があまり生じない。

・床ではやはりやりにくい。

（改善）作業は机でやるようにしたい。

4　振り返り

・今回の一番の目的である「昔の本を手にふれてみての感想」を、書かせるようにする。・説明の細かいもののチェックはなくてもいいのでは。

また、東京大学大学院生の石井悠加氏に、第三者の立場から事業の評価をしていただいた。

生徒たちの反応

・羊皮紙を「羊の皮で作った」という説明にはピンときていない様子だった。見たことがないので、牛革か羊毛を想像したのかもしれない。

・本に触れる前に、「なぜ手を洗い、よく乾かさなければいけないか」「なぜ本は机の上に置いたまま、そっと頁をめくらないといけないか、インクペンを使ってはいけないか」を生徒に問いかけ、理由を考えさせていた。実際に手を洗いに行った生徒は女子生徒が多い。

・先に古い本を大切に扱わないといけない理由が「買い直せないから」という分かりやすい表現で説明された。さらに、「古い本は大切なことを伝えてくれる」「日本に古い本が多い理由は、人々が未来に伝えようとしてきたから」と、本の価値について説明されたため、本を乱暴に扱って叱られる生徒はいなかった。

・全ての机を巡回しようとするよりは、空いているところや目についた本のところに移動している生徒が多かった。

・戦時中の紙芝居（マレーシア海戦）に男子生徒たちが集まる。一枚ずつ透明ケースに入っている安心感もあるのか、手にとって裏表をじっくり眺めていた。『永遠の 0』の

話をする生徒も。先日ジブリの『風立ちぬ』がテレビ放送された影響もあるか。戦中戦後の子ども向けの雑誌などもあると面白いかもしれない。

・百万塔陀羅尼も人気。容器の中に小さい巻物が入っているという面白さが興味を引く。同じように本のカバーに注目した生徒では、豆本の新古今和歌集が帙と木箱に入っていることに興味を持つ生徒も見られた。和本の綴じ糸がゴムに見えたため、軽く弾いて正体を確認する生徒も見られた。

・百人一首のかるたを手にとる生徒は、くずし字を読んでどの読み札なのかを当てようとしていた。横に百人一首の注釈書も並べて置いてあることは、百人一首が単なるゲームではないことに気づかせるきっかけになったのではないか。

・虫損、鼠のかじり痕に目のいく生徒も。どんな姿の虫なのか、虫はどこに行ったのかと気にする生徒も。鼠のかじり痕については、かじった犯人を院生がクイズで出題して好評。

・巻物の取り扱いについては指導が必要。複製『源氏物語絵巻』のそばには先生や院生がついて拡げ方を指導していた。内容よりも、巻物という形態に興味を持っていた様子。小型の巻物なので子どもの手でも扱いやすい。

・ご当地である横浜の開港に関する図書館の所蔵資料を集めた机があり、そのとなりの机に、明治期のアルファベットや英語の教則本が置いてある。開港時の横浜の風景を描いた絵と、その時に読まれていた本が並べてあることで、明治維新の頃の日本人の西洋に対する関心の高さの理由がスムーズに実感できるのではないか。

・写本か刊本かの区別を意識しようとしている生徒は少なく、院生にどちらかと質問されてから答えを考えている様子だった。自力で本の制作者や所有者にまで想像力を働かせることは難しいか。

いただいた改善点を踏まえ、平成２７年度のモデル授業に活かしていきたい。

３．教材の開発と修正について

鶴見大学文学部　准教授
久保木　秀夫

本プログラムは、日本の古典籍を中心とする和漢洋の貴重書類の実物を、小学生が、ガラスケース越しなどではなく、目前に見る、かつ自分自身の手で触れ、取り扱うこと、それによって書物の歴史や、それにまつわる様々な文化に興味を持ってもらうこと、を目指したものである。

ただし、貴重書類の実物に接したとしても、何の予備知識もないままであれば、その効果は激減するだろう。そうではなく、実物に接する前に、昔の古い本がどうして大切なのか、かつ大事に扱い、保存していかなければならないのかを、理解してもらう必要がある。

そこで実物に接する前に、本の歴史、本の形、本の貴重さ、本の取り扱い方に関する事前レクチャーをすることとした。具体的には、PowerPoint を用いたプレゼンテーションを行い、かつそのスライドを少し加工した紙媒体のプリントをも配布して、書き込みもできるように理解を助けるようにした（→添付資料のうち[１]スライドプリント、[２]配付プリントを参照)。

その際に注意したポイントが何点かある。まず（１）プレゼンテーションに時間をかけすぎないこと。小学校関係者、あるいは小学生の子供がいる教職員複数名に確認したところ、小学生高学年の集中力は、長時間は続かないとのことだったので、15～20 分を目安とし、骨格となるところのみをテンポよく伝えていくことを目指した。結果、これまで実施した３校４回では、ほぼ全員の生徒が、集中して、熱心に聞いてくれたようである。

また（２）クイズ形式の質問を含めるとすること。これは小学生に限らないであろうが、講師が一方的に話を続けていく形のレクチャーとしてしまうと、どうしても飽きてきたり、気が逸れたり、眠くなったりする聴講者が出てくる。それを防ぎ、集中して聞いてもらえるよう、クイズに近いような質問を設けるようにした（→スライド５～９など)。実施初回時には挙手などの反応があるかどうか、いささか不安ではあったが、実際に行ってみると、予想以上に挙手があり、答えが違ってもまた同じ生徒が挙手をして、という積極的な姿勢などが頻繁に確認された。総じてどの回でも相当な反応があり、この方法の有効性を確認することができた。

それから（３）プレゼンテーションの内容について、学術的で専門性の高い内容にすること。かつそれを極力平易な表現で伝えること。前者については、同じスライドで、日本古典文学を専門とする他大学の大学院生を相手にレクチャーを行ってみたところ、各質問に対して適切な解答が得られることはほとんどなく、内容的に高度な知識が詰め込まれていることを確認できた。かつそのような内容を、後者のように、なるべくわかりやすい形で伝えることにも配慮した。そのため複数の教科書出版社の国語教科書などを参考にし、言葉遣いや言い回しなどに気を配ったり、またカラー画像を多用したり（→全スライド参

照)、現代の本と昔の本との違いを明確に示してみたり（→スライド３参照）することで、より具体的に、かつ身近に感じてもらえるようにした。なおサンプルとして掲げた現代の本に関しては、豊岡小学校のクラス担任から、今の小学生に馴染みがあるのは、例えば『ナルニア国物語』シリーズや『ハリー・ポッター』シリーズなどである、というアドバイスをいただいた。この点はまだまだ今後の改善の余地がありそうである。

そのほか、特に日本の古典籍が、大きく写本（手書きの本）と版本（印刷された本）とに分けられること（→スライド 10〜12)、それらがなぜ貴重であり、それらを取り扱う際にどのような注意が必要か、ということなどをも盛り込んだ（→スライド 13〜)。以上のような内容を事前にレクチャーすることによって、何百年、何千年も前の貴重書類を、実際に手にすることの「重み」を理解してもらい、同時に、それら大切な文化遺産を保存していくこと、あるいは調査研究していくことに興味を持ってもらいたい、ということを目指した。本年度に関しては、それはおおむね成功したと考えているが、なお来年度も、さらなるブラッシュアップを行っていく所存である。

また前述のとおり、本スライドに基づきつつ、少し体裁を変えて配布プリントも作成した（→添付資料のうち３解題プリント)。それに加えて、貴重書類の中でも特に重要と判断される分につき、鶴見大学図書館・神奈川県立図書館が分担しつつ、図版付の簡潔な解題プリントをも作成した。のみならず、それら１６ページから３２ページに及ぶプリントを、和装本作成体験の材料として活用することとし、単なる「プリント」に終わらせないようにも工夫した。そのためプリントは、通常の印刷用紙ではなく、和紙の繊維が混ぜ漉きされた印刷用紙で作成した。小学生が普段手にする紙とは質感が異なっているため、それもまた「現在とは違う文化」を理解する一助となったようである。

４．まとめ

1) 平成 26 年度総括

事業の中間実績として「みる(説明)・さわる・つくる」の三部構成での実施方式を開発・改良した。実施内容に即したテキスト・教材を開発・改良した。

展示する資料は、本学と県立図書館の所蔵資料と、教員の個人蔵書とした。

事業実施では、「みる(説明)」は教員が実施した。「さわる」は主に院生が担当した。「つくる」は院生と図書館員が生徒の指導を行った。

当初は、本学や県立図書館に近隣の小学生が来館して実施する「来館実施」を想定していた。小学校と連絡している中から、小学校に訪問して実施する方式「訪問実施」を追加した。

小学校との事前調整は、本学教員、本学図書館、県立図書館の三者の連携で行った。教材の準備・運搬は、本学図書館、県立図書館で分担して行った。

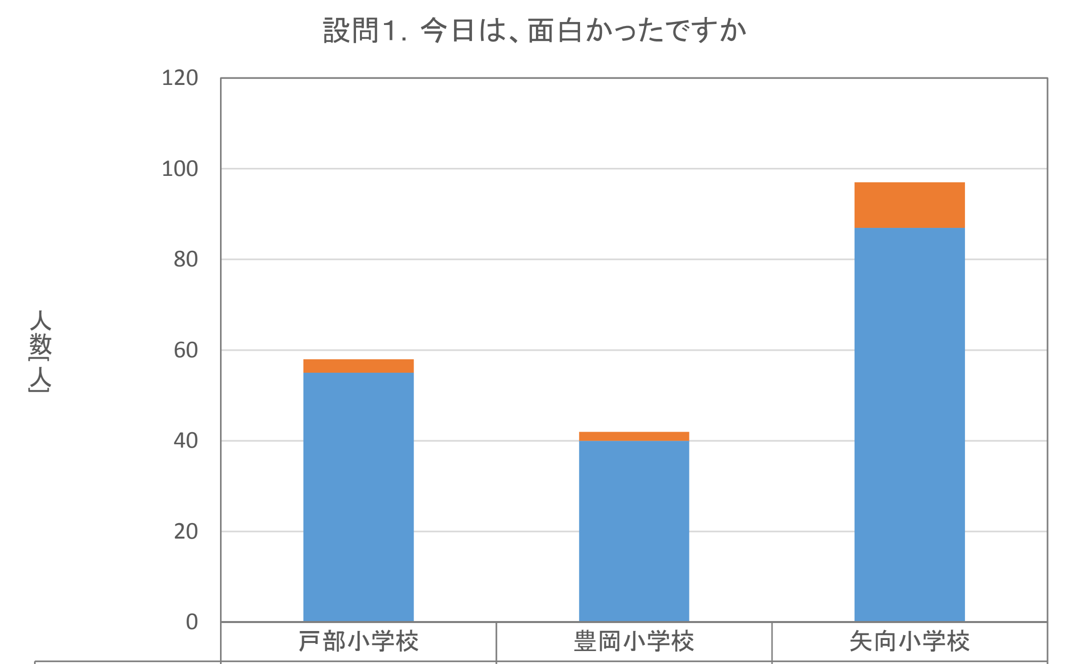
第三者の観察の機会を設け、その評価を事業内容・方法にフィードバックした。アンケート結果と第三者観察による「反省点・改善点」は、各実施詳細の最後に既述している。

小学校側での評価・成果は「２．実施詳細」のアンケートを参照いただきたい。

学校名	戸部小学校	豊岡小学校	矢向小学校
日時	平成 26 年 6 月 11 日(水) 10：45～12：15	平成 26 年 7 月 22 日（火） 平成 26 年 7 月 23 日（水） 9：00～12：00 の２回	平成 27 年 2 月 26 日(木) 8：40～10：05 10：30～11：55 13：50～15：10
対象	6 年生 2 クラス 古典籍実見と和本づくりを同時並行・交換で実施 58 名	サマースクール 希望者の 4～6 年生 各日 21 名、計 42 名	5 年生 3 クラス 1 クラス単位の実施
方式	訪問方式	来館方式	訪問方式
場所	図書室（１階） 特別教室（２階）	鶴見大学図書館会議室 貴重書閲覧室	古典籍実見と和本づくりを同一会場

3 校への事業実施によって、訪問形式と来館方式の 2 つの実施形式のモデル化、及び、三部構成での実施方式とテキスト・教材を開発できた。

2) 小学校側のアンケート結果（3 校のまとめ）



	戸部小学校	豊岡小学校	矢向小学校
つまらなかった	0	0	0
ふつう	3	2	10
おもしろかった	55	40	87

図 1 小学生へのアンケート（設問１）

「おもしろかった」と回答した児童は、戸部小学校では 55 名（94.8%）、豊岡小学校では 40 名（95.2%）、矢向小学校では 87 名（89.7%）であった。

「ふつう」と回答した児童は、戸部小学校では 3 名（5.2%）、豊岡小学校では 2 名（4.8%）、矢向小学校では 10 名（10.3%）であった。

「つまらなかった」と回答した児童はいなかった。

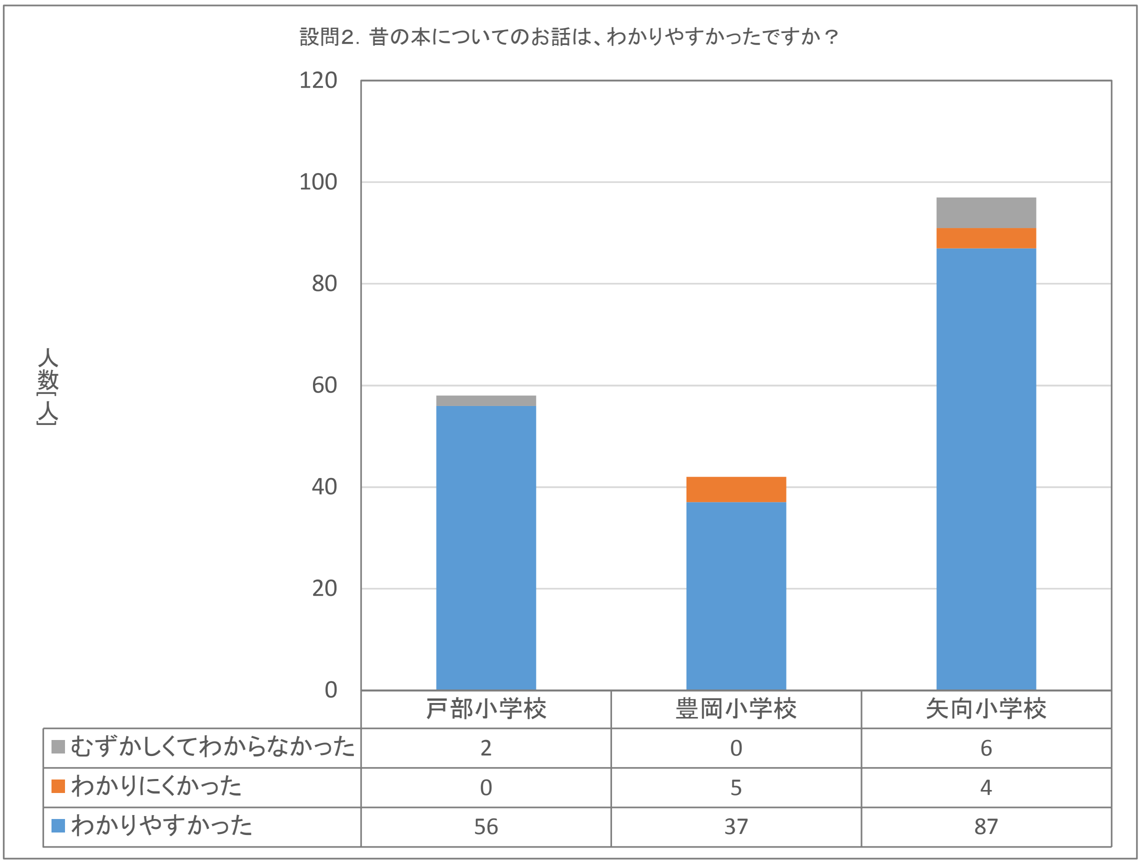


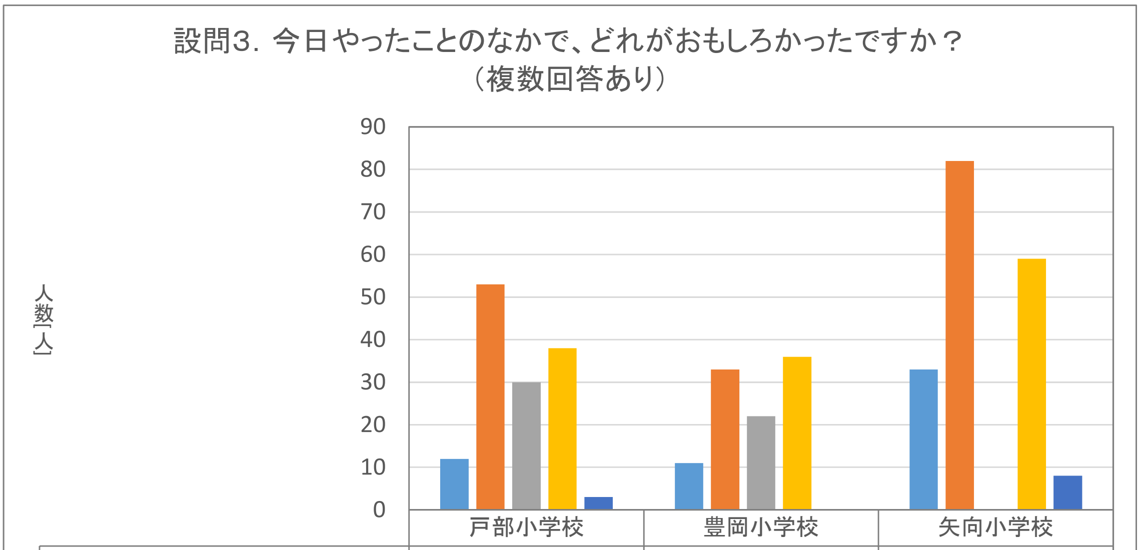
図 2 小学生へのアンケート（設問２）

訪問方式と来館方式での傾向に大きな差は見られなかった。

「わかりやすかった」と回答した児童は、戸部小学校では 56 名（96.6%）、豊岡小学校では 37 名（88.1%）、矢向小学校では 87 名（89.7%）であった。

「わかりにくかった」と回答した児童は、戸部小学校では 0 名、豊岡小学校では 5 名（11.9%）、矢向小学校では 4 名（4.1%）であった。

「むずかしくてわからなかった」と回答した児童は、戸部小学校で 2 名（3.4%）、豊岡小学校では 0 名、矢向小学校では 6 名（6.2%）であった。



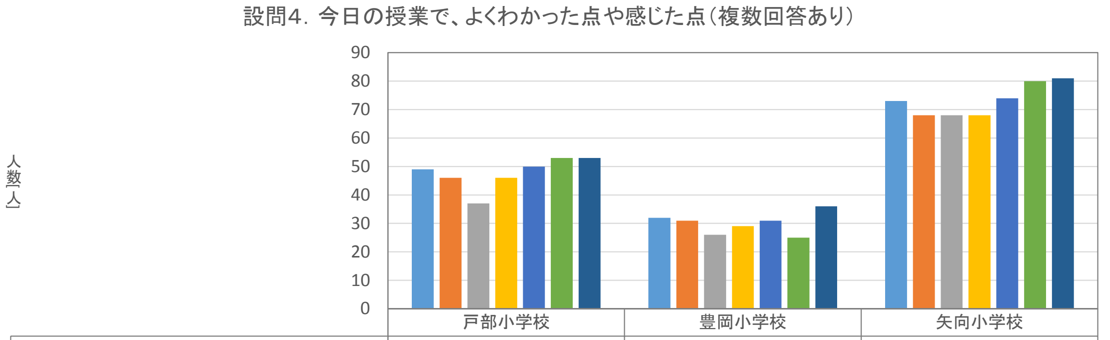
	戸部小学校	豊岡小学校	矢向小学校
最初のお話	12	11	33
昔の本などを、さわっていいコーナー	53	33	82
昔の本などを、さわらないで見学するコーナー	30	22	
和本づくり	38	36	59
その他	3	0	8

図 3 小学生へのアンケート（設問３）

戸部小学校では「昔の本をさわる」がおもしろかったと回答した児童が 53 名（91.4%）と一番多く、次いで「和本づくり」が 38 名（65.5%）であった。

豊岡小学校では「和本づくり」がおもしろかったと回答した児童が 36 名（85.7%）と一番多く、次いで「昔の本をさわる」が 33 名（78.6%）であった。

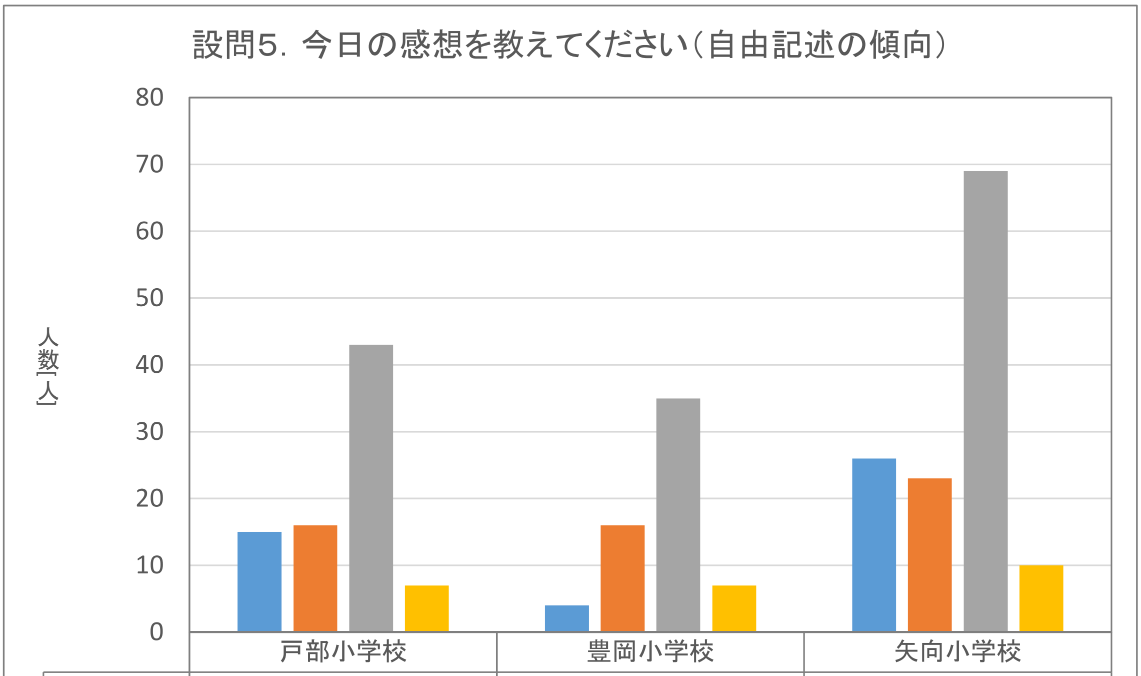
矢向小学校では「昔の本をみたりさわったりする」がおもしろかったと回答した児童が 82 名（84.5%）と一番多く、次いで「和本づくり」が 59 名（60.8%）であった。なお、矢向小学校では選択肢を「昔の本をさわる」「昔の本をさわらずに見学する」の 2 点に分けることをやめた。



	戸部小学校	豊岡小学校	矢向小学校
a)人々が、大昔から文字を使って色々なことを伝えようとしてきたことが分かった。	49	32	73
b)昔の本の種類には、手で書いた本と印刷した本の2種類があることがよくわかった。	46	31	68
c)手で書いた本と印刷した本の違いが、実際に見てよくわかった。	37	26	68
d)昔の本のあつかい方がよくわかり、実際、それにしたがってあつかうことができた。	46	29	68
e)古い本の形には、いろいろな種類があることが分かった。	50	31	74
f)古い本を実際に見たりさわったりして、大切に伝えられてきたものであることを感じた。	53	25	80
g)昔の本がなぜ貴重なのかがよくわかり、大切に伝えていく必要があると思った。	53	36	81

図 4 小学生へのアンケート（設問４）

３校いずれも「昔の本がなぜ貴重なのかよく分かり、大切に伝えていく必要があると感じた」と答えた児童が最も多かった。



	戸部小学校	豊岡小学校	矢向小学校
レクチャー	15	4	26
和本作り	16	16	23
実見	43	35	69
全体	7	7	10

図 5 小学生へのアンケート（設問５）

自由記述の回答を「レクチャー」「和本作り」「実見」「全体」に分けたところ、3 校とも「実見」に分類される記述が一番多かった。

3)　次年度事業に向けて

以下の点を次年度の検討課題とする。

a)実施小学校は、新規開拓か継続か、4 クラス以上も可能か、市外も挑戦するか？
参加募集で参加小学校を募ることもあり得るか？
豊岡小・サマースクールなど、クラス単位以外の実施もあり得るか？
モデル開発の観点で選ぶと、優先順位はどうなるか？

b)実施内容は、解説・実見・製作の 3 部構成を踏襲し、重点をどこに絞るか？
授業との関連を深めて歴史などに特化することもあり得るか？
院生のアシスタントとして学部生を活用することもあり得るか？
説明部分を図書館員で実施できるか？
教材購入した資料は活用できるか?

c)次年度の職員体制はどう進展させるか？
館員の見学による意識改革もあり得るか？
教員と図書館員の数をコンパクト化し、更に学生を活用できるか？

本事業は、神奈川県の平成 25 年度大学発・政策提案において、(事業名称)「小学生向け和洋古典籍実見・体感プログラム開発事業」、(提案名称)「小学生が日本と世界の古典籍類を実見・体感し知性を刺激して感性を涵養するためのプログラムと教材の開発と実施」として、平成 26 年度から平成 27 年度の期間で採択され、大学と県が共同で事業を実施している。

[神奈川県]大学発・政策提案
「小学生向け和洋古典籍実見・体感プログラム開発事業」
中間報告書

編集：鶴見大学学術情報事務室
発行日：平成 27 年 10 月 1 日
発行：鶴見大学・神奈川県立図書館
230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3　鶴見大学　図書館：045-580-8269
http://library.tsurumi-u.ac.jp/library/index.html
220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ケ丘 9–2　神奈川県立図書館　045-263-5900
http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/yokohama/index.html